

プロジェクト ASAF 対応

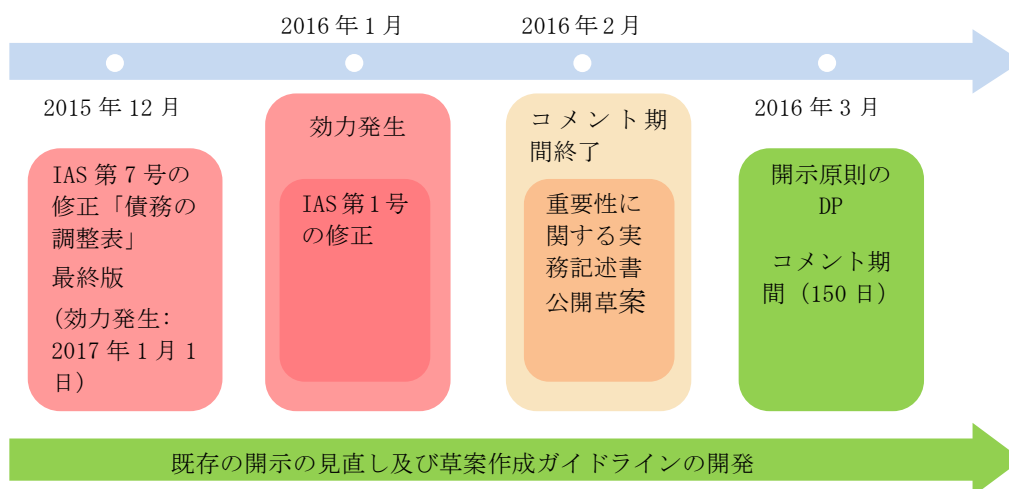
項目 開示に関する取組み—今後の進め方

本資料の目的

1. 本資料は、開示に関する取組みプロジェクトの今後の進め方に関する IASB スタッフの提案及び ASAF 会議における対応案を説明することを目的として作成している。

開示に関する取組み—次のステップ

2. 図表 1 は、開示に関する取組みプロジェクトについて、近い将来に訪れる次のステップを示している。

図表 1：開示に関する取組みの概要

3. 上記の表について補足すべき主な点は、次のとおりである。

(1) ASAF 会議における議論

2015年7月のASAF会議にて、開示原則に関するディスカッション・ペーパー (DP) の内容を議論したほか、2015年12月のASAF会議では、重要性に関する実務記述書の公開草案が議論される予定である。

(2) 基準レベルでの開示の見直しプロジェクト

- 2015年12月のIASB会議にて、基準レベルでの開示の見直しプロジェクトの範囲及び内容が議論される予定であり、2016年4月のASAF会議において同じ論点を議論することが予定されている。
- 同プロジェクトの目的は、基準における、より良い開示のガイダンスを

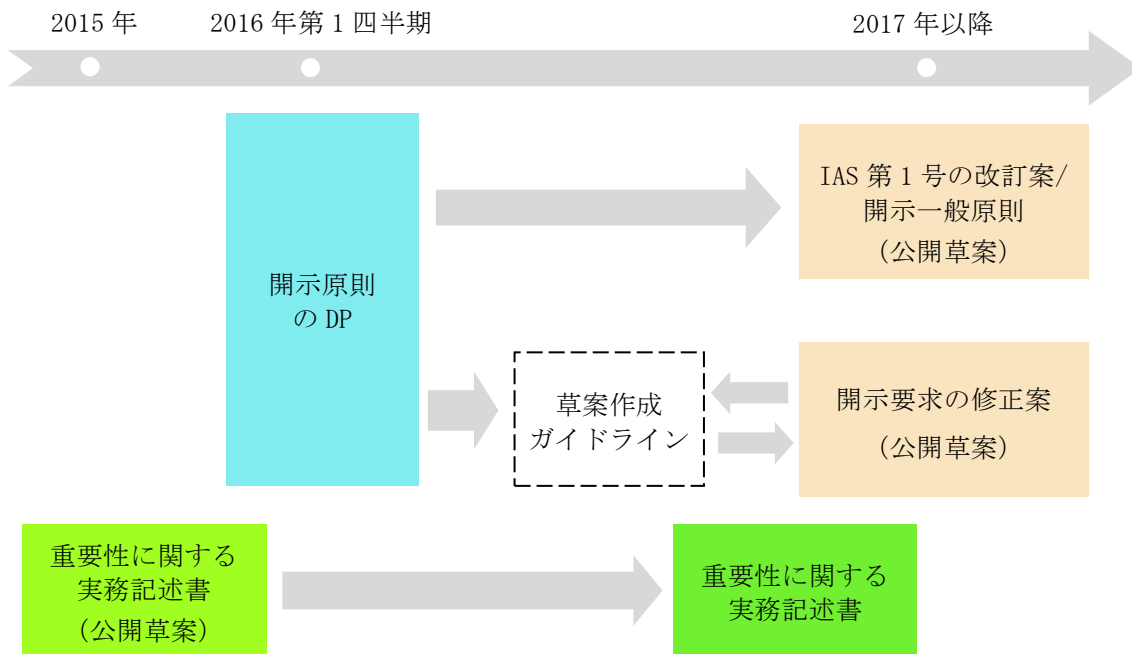
IASB のために作成することであり、開示要求の記載方法が「開示問題」の一因になっているという懸念に対応することを意図している。

- 具体的には、次の事項が計画されている。
 - ① 既存の基準における開示要求の改善点の識別
 - ② 基準の開発及び修正において開示要求を開発する際に、IASB を支援するための内部的な草案作成ガイドラインの開発
- 本プロジェクトは、開示原則プロジェクトで開発された原則が参考にされることが想定されている。このため、まず、基準の草案作成のための原則案及び既存の基準が如何に再起草されうるかの事例を開示原則の DP で示すことを計画している。この事例の目的は、一連の原則が如何に開示要求の起草に使われうるのかを実証し、フィードバックを入手することである。

開示に関する取組み—その後のステップ

4. IASB スタッフは、開示原則の DP で示す原則案に対するフィードバックを IASB が開示要求を起草するための足掛かりにすることを考えている。IASB スタッフは、開示に関する取組みの他のプロジェクトが進展した時に、この作業に着手できると考えている。
5. この目的のため、IASB スタッフは、開示原則の DP に寄せられたフィードバックを次の 2 つのことに使うことを提案している。
 - (1) IAS 第 1 号「財務諸表の表示」の改訂又は新たな全般的な開示原則基準に関する公開草案の開発を行うこと
 - (2) 基準の開発又は修正において開示要求を開発する際に、IASB を支援するための草案作成ガイドラインを開発すること
6. IASB スタッフは、当該ガイドラインを、抽出した基準の開示要求を見直すために使うことを提案している（すべての基準を見直しの対象とするか、幾つかの基準を対象とするかについては、今後決定する予定である）。これらの基準に対する修正案は、開示原則の公開草案と並行して開発され、公開草案とされる予定である。
7. 図表 2 は、開示に関する取組みプロジェクトについての進め方の提案を図示したものである。

図表 2：開示に関する取組みプロジェクトについての進め方の提案



ASAF 会議における対応（案）

8. （今回のセッションは、IASB スタッフからの説明が主な目的とされているものであるため）ASAF 会議において、まずは、IASB スタッフから説明されている「草案作成ガイドライン」がどのような内容か、これについて公表が意図されているか否か等について、確認をすることとしたい。

以 上